

中国でMIDI検定試験開始

～日本のMIDI検定はいよいよ海外へ向けてその第一歩を踏み出した～



受講風景



氏家克典氏(右)



STN大会会場

平成11年1月にMIDI検定3級筆記試験を始めてから、早いもので6年の月日が流れました。これまでに3級で約1万4千名、2級筆記試験で約3千名、2級実技試験で約2千名の受験者がこの検定制度に挑んでおり、このうち3級で9,705名、2級筆記で1,400名、2級実技で420名の方が合格しております。また、一昨年より制定を致しましたMIDI検定4級のAMEI公認指導者を認定するMIDI検定4級指導者認定制度や、同じく3級を指導するMIDI検定3級講師の認定制度など、国内の検定制度は非常に充実した内容になってまいりました。今年度の2級および3級の筆記試験も12月5日に実施され、今年も多くの方が受験されました。このような流れと平行して、MIDI

検定委員会では、このMIDI検定制度を中国国内で実施する準備を進めて来ました。今年は、8月16日～19日に北京で行われた全国デジタル音楽教育大会、ならびに10月19～22日に上海でおこなわれたMusic Chinaにおいて、MIDI検定普及のためのセミナーをおこなってまいりました。

本号ではこの二つのセミナーの内容などを中心に報告します。また、今年度はMIDI検定3級試験が日本と中国とで同日に開催されました。来年度には2級筆記試験の立ち上げも予定しており、急激に進展する中国市場から目が離せない状況となってまいりました。

CONTENTS

- 中国でMIDI検定試験開始 1
- STN大会参加報告(中国デジタル音楽教育連盟主催) 2・3
- 上海MUSIC CHINAに参加して 3
- 音楽著作権関連の状況とその課題 4・5
- 新設「楽器内蔵コンテンツ等の保護に関する検討WG」の紹介 6
- NAMM2005ビジネスツアー会員募集 7
- AMEI会員名簿、MIDI2級2次実技試験実施のお知らせ 8

AMEI NEWS Vol.25 / 2004.12.6

社団法人音楽電子事業協会 機関誌

発行：社団法人音楽電子事業協会 事務局

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-16-9

イトービル4F

TEL.03-5226-8550 FAX.03-5226-8549

発行人：平野 勝彦

編集人：福田 誠 (広報委員会)

編集協力：株式会社 博秀工芸

ホームページアドレス：<http://www.amei.or.jp/>

STN大会 参加報告

(中国数字化音楽教育連盟主催)

JSPA (日本シンセサイザー・プログラマー協会) 上杉尚史・理事

去る8月16日～19日に北京市で行われたSTN大会において、MIDI検定3級の内容を解説し、さらに12月に行われるMIDI検定3級試験の運営協力者(指導者)を育成する目的で、セミナーを行ないました。今回のセミナー講師を担当したのは、AMEI MIDI検定委員会副委員長の氏家克典(JSPA副理事長)と、JSPAでMIDI検定実務を担当する上杉尚史(JSPA理事/筆者)の2名です。



会場前にて上杉氏(左)と氏家氏(右)

■ 8月15日に北京入り

我々が北京入りしたのは、お盆休み最後の日曜日である8月15日で、19時過ぎに北京国際空港に到着いたしました。中国でのMIDI検定実施に多大な協力を頂いております中音会社の超易天氏に出迎えていただき、近代的なオフィスビルが建ち並ぶSOHO地区にあるAVICホテルにチェックインをいたしました。

ホテルの半分がオフィスビルとなっており、ブロードバンドインターネット設備など、かなり近代的なホテルでした。丁度アテネオリンピックの真っ最中ということもあり、テレビはほとんどがオリンピック中継となっております。

■ 会場へ

翌16日、我々は今回のSTN大会会場となっております、中央音楽学院という音楽学校へ向かいました。セミナー会場は学院内の小ホールで、我々が会場に入ったときには、既に数十名の受講者が席に着いておりました(最終的には150名程度の参加者でした)。受講者は中国各地で活躍されている音楽学校の先生やミュージシャンの方々と、若い方から年配の方まで幅広い層の方が参加されておりましたが、特に若い方が多かったのが印象に残っております。

講義は、日本語で解説した後、中国語に翻訳されて伝えられるという方式で行なわれ、通訳はMIDI検定ガイドブックの中国語訳を担当した中音会社の陳氏が担当しました。

初めに氏家氏の挨拶があり、その後MIDI検定全体の仕組みについて解説を行ないました。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、MIDI検定には4級、3級、2級の3グレードが存在し、さらに2級は筆記試験と実技試験の2つに分かれております。このうち今回、中国で実施を予定しているのは3級だけなのですが、受講者からは2級の難易度や、実技試験の実施方法など、上位グレードに対して関心が非常に強かったのが印象に残ります。

その後、MIDI検定3級ガイドブックの前半部分の内容を2時間程度解説いたしました。内容としては2進数や16進数などといった数学的な話や、シーケンスソフトウェアでの音楽データの表記方法など、非常に専門的かつ硬い話だったのですが、終始真剣に聞いていただき、休憩時間には多くの質問が出されました。また、多くの受講者から記念撮影、サインを求められ、有名人になったような錯覚を覚えるほど、貴重な体験をさせていただきました。

■ 2日目

翌17日も引き続きガイドブックの解説を行い、後半に実際の試験問題の解説を行ないました。2日目ともなると、受講者と我々との間に親近感がわき、質問や記念撮影が前日にも増して行われるようになりました。質問事項として多かったのは、イベントリストと呼ばれるシーケンスソフトウェア上の音譜表記に関する部分で、Aの問題とBの問題で同じ8分音符なのになぜ数値が微妙に違うのかなど、ニュアンスと数値表記の関係が具体的にどのようなになっているかに関心が寄せられました。これは日本でも非常に多い質問の一つなのですが、音楽を数値で表現する上で、ガイドブックなどに記載されている数値はあくまで目安であるため、例えば音の強さを表すペロシティという数値が100と99では、どちらもフォルテの強さであり、逆にフォルテを問う問題に対し、100は正解で99は不正解という問題はナンセンスになってしまいます。そのためMIDI検定の問題では、解答の選択枝に明らかに異なる解答、例えば100と10などといった数値を用意し、解答を求めようにしています。こういった問題の出題方法に関する内容も解説を行い、MIDI検定の全容についても理解していただきました。

また、熱心な受講者の方でコントロールチェンジやピッチベンドといったMIDIメッセージの英語表記を教えて欲しいという女性がおりました。これは、ガイドブックでは中国語に訳されているのですが、実際に使用しているシーケンスソフトウェアが英語表記のため、関係がわからないためだとのことでした。おそらく今後、中国語版のソフトウェアが開発される際には、我々のMIDI検定ガイドブックが参考になるのではないかと思います。

■ 受講者に実際の3級試験を受けていただく…

翌18日は、今回の受講者を公認のMIDI検定3級試験運営協力者(指導者)として認定するために、実際の3級試験を受験していただく日となりました。

試験会場は、同学院の一般教室4つを使用して行われ、132名の受講者がこの認定試験に挑みました。中央音楽学院の先生方にも試験監督をご協力頂き、12月に予定されている筆記試験と全く同じ方式で試験を運営していただきました。途中いくつかの翻訳ミスが発覚しましたが、その場で受験者に説明することで特に大きなトラブルは発生しませんでした。受験者の質問で特に印象に残ったのは、音楽記号のタイの訳が、

記号そのものと演奏する際に取り交わされる言葉とで、あてがわれる漢字が異なるようで、解答の選択肢にその漢字が無いというクレームを言われた受験者がおりました。こういったケースはまれですが、日本も中国も同じ漢字の国でありながら、同じ字を使っているにもかかわらず全く意味が異なる場合も多く、今後試験問題等を翻訳していく際に、注意をしなければいけないと思いました。

試験時間は90分で、日本で行なわれる3級試験の場合40分程度で約半分の受験者が終了して途中退出し、60分程度で9割の受験者が終了してしまうのですが、今回は、初めての経験ということもあり、皆さん慎重に受験されておりました。

あまり途中退出される方が少ないので、難しいのかと思ったのですが、受験者の方に感想を聞くと、問題は簡単で、ガイドブック、セミナーの内容に添った非常に良い問題だったと言っていただき、安心いたしました。

■ 閉会式

4日目の19日は、全国数字化音楽教育大会の閉会式が行なわれ、今回のMIDI検定3級セミナーに参加した受講者全員に「MIDI検定3級講座参加証」が配られました。また、前日の試験に合格された方には「MIDI検定特別認定証」が送られることも伝えられ、4日間のMIDI検定を中心とした全国数字化音楽教育大会は幕を閉じました。

また、この日に中国語版MIDI検定4級ガイドブックの販売も開始され、会場で受講者の方が購入しておりました。

今回の中国訪問では、中音会社の超氏のご好意により、市内観光をはじめ、万里の長城への観光や、中国人若手プロ



デューサー張亞東氏 (ZHANG YADONG ジャンヤードン) 氏のプライベートスタジオを訪問するなど、中国の文化と最新の音楽事情などを堪能す



ることが出来ました。また、今回の受講者はもちろんのこと、北京市内で見かけるほとんどの市民が明るく希望に満ちた顔をしていたのがとても印象的で、この国の経済が急速に発展している背景には、こういった前向きな人々のパワーが源になっているのだということを実感し、MIDI検定の急速な普及を確信した4日間でした。

上海MUSIC CHINAに参加して

MIDI検定委員会 副委員長 氏家克典

8月のDMEA (Digital Music Education Academy of China、中国数字化音楽教育連盟) 主催のSTN (Sharing Teacher's Network) 大会に続き、今回10月20日～23日に上海にて開催されたMUSIC CHINAにJSPA (日本シンセサイザー・プログラマー協会) 会長でもある松武秀樹氏とともに参加してきました。目的はもちろんMIDI検定のプレゼンテーションです。DMEAによる中国での第一回目のMIDI検定3級試験が日本と同時開催の12月5日と発表された直後ということもあり、会場には120名を越す多くの聴講者が集まり、大変注目度の高い、熱気に溢れるセミナーとなりました。

自己紹介の後まずは私から日本でのMIDI検定の状況、過去の分析についてプレゼンを行いました。すでに3級と4級のガイドブックは中国語版が全土で発売されているので、とりわけ2級と実技の関心度はとても高く、早急な対応の必要性を強く感じました。

続いて松武氏よりMIDIによる最先端技術のプレゼンが行われました。とりわけ日本から持参した最新鋭携帯による音源システム、技術革新、音楽再生に驚嘆の声が多数あがっていました。またMIDIを取り巻く情報配信に関しての部分では著作権、著作隣接権に関してもわかりやすい説明を交えて解説が行われ、ソフトウェアのコピーが氾濫している中国の諸事情に一石を投じることに貢献できたのではないのでしょうか。

最後に松武氏持参の携帯をPAシステムに直結して曲を演奏させ、私がコンピューター上で最新のソフトウェアシンセサ



JSPA会長 松武秀樹氏 (右)

JSPA副理事長 氏家克典 (左)

(AMEI MIDI検定委員会 副委員長)

イザーを弾いて、無事セミナーは満場の拍手とともに終了致しました。

上海滞在中は、今回の出張を手配してくれた中音会社の超易天氏がフルサポートしてくれました。上海市内も見て回りましたが外灘あたりの欧風伝統建築と川向うの超モダンな高層ビル群とのミスマッチや古き良き時代の上海をしっかりと残したエリアなどを見るにつけ、中国の絶妙な発展の方向性を見た思いがします。余談ですが10月は上海蟹のベストシーズンで本当に何匹食べても飽きない程旨かったです。